

センターだより

きゅと!

子どもたちの目標



- 「規則的な生活と元気な体づくり」
- 「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
- 「自分のことは自分でする」
- 「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
- 「知らない所でもなじむことができる」
- 「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
- 「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」

令和5年2月号

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

2月の予定

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 4日(土) やきいも会 | 23日(祝・木) おやすみ |
| 6日(月) 運営協議会 12:00~ | 25日(土) おやすみ |
| 11日(祝・土) おやすみ | 27日(月) 避難訓練 センター棟 |
| 18日(土) おやすみ | |



○実習生

1/		よろしくお願ひします。
2/ 1(水) ~2/14(火)	四天王寺大学	福祉専門学校 社会福祉士 1名 保育士 2名
2/21(火) ~3/ 7(火)	四天王寺大学短期大学部	保育士 2名

○令和5年度 児童発達支援を継続してご利用される方へ・・・

次年度継続利用の方の契約は自動更新とさせていただきますので、新たな契約書への署名などの必要はありません。

○年間まとめの配布について

今月末~3月初旬に年間まとめを配布させて頂く予定です。ご一読の上、保護者の方のご意見を記載頂き、クラス担任までご提出をお願いいたします。3月にまとめの懇談を予定しています。日程についてはクラス担任よりご連絡させていただきます。大変お手数をおかけしますがよろしくお願い致します。

○令和4年度末で卒園・退園される方の医療外来再申込について

児童発達支援を卒園・退園される方は現在受けて頂いている作業療法・言語療法は3月末で終了となります。次年度以降に医療外来の作業療法・言語療法の再開を希望される方は、改めて申込をして頂く必要があります。3月に申込方法についての説明用紙を配布させていただきますので、ご不明な点は担当療法士にお声掛けください。

○評価表のご記入ありがとうございました

たくさんの貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。現在集計中ですが、まとまり次第、センターホームページに掲載するとともに、より良いサービスを提供できるよう活用させていただきます。



○おねがい

今年度も10か月が経ち、初めは一人で遊んでいたりと、先生と遊ぶことが多かった子どもたちも、今ではお友だち同士で関わって遊ぶことが増えてきたように感じます。

お友だちと楽しく遊べるように、ご自宅でお子さんの爪をこまめに確認していただき、爪が長い時はご家庭で切っていただきますようお願いいたします。



つめはみじかくきりましよう

食を通して『自己理解』を育む

栄養士 梅澤 しづ代

人が生きていくためには「食べる」行為は必要なことです。食べ物を食べて体内に栄養を取り込むことで、人はいろいろな事が出来るようになります。例えば“考える”ことや“体を動かす”こと、また“子どもが成長する”ことや、“大人が身体を維持する”こと等様々な営みが挙げられます。これらを円滑に、活発に営んでいくためにも栄養は必要です。

そして実は、「食べる」という行為は栄養を体に取り込むだけではなく、子どもが成長する過程でいろいろなことを経験し、成長していく為にも必要な行動になります。

赤ちゃんは離乳食を食べ始めてしばらくすると、手づかみ食べをするようになります。手づかみ食べをすることで手は汚れますが、赤ちゃんは「食べる」ことの楽しみや空腹を満たす（快を感じられる）ことの喜びを感じ、「食べる」ことを「素晴らしいこと」と学習します。「食べる」という行為は、食べ物の感触や、口に運ぶ動作や咀嚼することを覚えていきます。

年齢が上がってくると手先の器用さも段々と養われていきます。道具が使えるようになると「食べる」ことが楽しくなり、今まで食べなかったものを食べるようになるお子さんもいます。

さらに年齢が上がると、食べていた物を食べなくなることもあります。味覚が成長し、自分の中で苦手なものを自覚するのです。その時にお子さんは大人に身振りや言葉で「食べたくない」、「嫌いな食べ物だ」等、伝えてくると思います。もしかしたら泣いて訴えてくるお子さんもいるかもしれません。

そこで大人が「どうして食べたくないのか？」と確認することで、お子さんは再び“自分はなぜ食べたくないのか”と考えます。そんな大人との何気ない食事のやりとりで、子どもは自分の気持ちに気づき、その思いを言葉や身振り等で表す中で、段々と自己理解に繋がっていきます。

そして、自分が苦手な食べ物を食べているお友達を見て、「食べてみようかな」とまた考えるきっかけになります。お友達と何気なく過ごす給食の時間でお互いに刺激しあい、また大人とのやりとりをしながら楽しい食事の時間を過ごすことも、子どもの『食育』にとっては大切なことです。

おうちでもお子さんとの食事の際にコミュニケーションをとっていただき、お子さんの身振りや言葉等に耳を傾け、もしお子さんが苦手なものを食べる事が出来たらほめてあげて下さいね。

